



「日常生活の指導について」

小学部主事 永澤 淳子

特別支援学校(知的障害)においては、児童生徒の学校での生活を基盤として学校での生活に即して学んでいくことが効果的であることから日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習などが実践されてきています。日常生活の指導では児童生徒の生活が充実し高まるように日常生活の諸活動について、知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を踏まえながら計画的に指導しています。日常生活の指導は、生活科を中心として、基本的な生活習慣の内容や日常生活や社会生活の中で習慣的に繰り返される基本的な内容が扱われます。日常生活の指導では、身近な処理や基本的な生活習慣に関わる内容が多く扱われますが、それらに必要な能力を獲得するための指導なのではなくそれらの能力を育成しながら「日常生活が充実し、高まるようにすること」が重要な目的です。

日常生活の指導では、日常生活や学習の自然な流れに沿って支援していくことが大切で、その活動に実際的で必然性のある状況下で取り組むことによって生活や学習の文脈に即した学習ができるようにしていくことが重要です。日常生活の指導の指導場面は日々繰り返されることから、指導にあたっては指導場면을逃さず繰り返し指導していくことが効果的です。毎日繰り返し指導していきながら、その指導方法には一貫性が求められます。特別支援学校の場合、複数の教師がひとりの児童の指導に当たることが多く、例えば着替えの仕方でも教師によって指導の方法が異なるのであれば、指導の効果は期待しがたく、一貫性が保障されません。教師間での指導に関する共通理解が必要で、指導の一貫性を保障するには個別の指導計画の活用が不可欠です。子どもの様子を的確に把握して目標設定を行い、そのための指導方法を教師間で共通理解できるように記載しておくことが必要です。

また、日常生活の指導では、身につけた力や行動様式は、特に身近な処理や日常生活習慣に関わる内容は幼児期から成人期になるまで一貫して保たれることが多く、例えば小学部段階で身につけた衣服の着脱の方法は成人になっても基本的には同じですが、中学部高等部の制服や大人になってからの衣服のデザインは変わっていくことも考え、年齢相応の衣服についても配慮した指導が必要と考えます。

また、日常生活の指導の内容は学校だけでなく家庭でも行われることが多く、家庭でも日常的に繰り返されます。日常生活の指導が効果的に行われるには家庭の連携が不可欠であり、学校でどのような方針でどのようなに行っているかを家庭に丁寧に伝え、協力していただくことが大切になってきます。それに加えて学校から家庭へという視点だけでなく、家庭での指導についても情報交換し共通理解しながらよりよい指導を実践していきたいものです。

♡ほっと相談会のご案内♡

- 1 日時 平成30年1月10日(水)、11日(木) 9:00~17:00
- 2 場所 横手支援学校 小・中学部校舎
- 3 申し込み

平成30年1月9日(火)まで

阿部潤子宛て 電話、FAXで(本校HPの申込書もご利用してください)

①希望日②希望時間③相談内容について、ご連絡ください。

☆これまでの利用状況

5月 2件 、7月 1件

〔主な相談内容〕・個別の指導計画・年間指導計画の作成、自立活動の授業について、新設校訪問の授業について、校内の特別支援教育の研修計画について 等

障害の理解や対応の仕方、日々の授業づくり、教材、個別の指導計画の立て方など、日々感じられていることを一緒に考えられる場にしたいと思います。お気軽においでください。



☆横手支援学校小学部1・2年 日常生活の指導の様子の紹介☆

「あさのかつどう、あさのかい」

小学部では、登校後の8:50から9:35までを朝の活動、朝の会の時間として、持ち物の整理、着替え、排せつなどの基本的な生活習慣や、集団参加の基礎となる力を育てています。低学年では特に、自分で身の回りのことを行おうとする気持ちや1日の活動に期待感をもつことを大切にして指導を行っています。

自分から身の回りのことや係の仕事を行うために

- ・情報量や動線を考慮し、教材を提示したり、環境を整えたりしています。
- ・持ち物や着替えの場所、係の仕事を固定し、個々に合わせた手立てを工夫しています。(写真1)
- ・児童が考えて行動したり、自分から取り組んだりできる言葉掛けをしています。
- ・できたことを言葉や身振りで即時評価し、自分の行動が正しいことを知らせ、達成感を感じることができるようになっています。



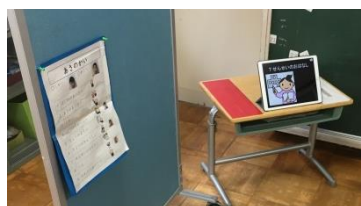
着替えの空間



↑朝の活動の手順表

1日の流れや活動に見通しをもつために

- ・身辺処理の手順や活動内容を、実物、写真、イラストなどで示しています。
- ・学習で使用するものを提示したり、キーワードと一緒に話したりして学習への期待感を高めています。



朝の会の司会を支援するグッズ

友達と関わるために

- ・児童同士が関わりやすい座席の配置をしています。
- ・友達と関わる場面を繰り返し設定して関わる機会を増やし、その都度正しい方法を伝えています。
- ・児童の身振りや言葉を代弁したり、適切なやりとりの仕方を示したりしています。
- ・友達の様子を指差しや言葉で伝えたり、児童の気づきを待ったりしています。



教育相談等の問い合わせ先



県立横手支援学校

教 頭 阿部 洋一

TEL0182-33-4166

高等学校特別支援隊については、教 頭 松井 克彦

TEL0182-33-4167

派遣依頼文は横手支援学校ホームページ(<http://www.yokote-s.akita-pref.ed.jp/>) からダウンロードできます。